

修士論文（要旨）

2022年1月

サービス付き高齢者向け住宅入居者の嚥下機能と生活満足度の関連

指導 渡辺 修一郎 教授

老年学研究科

老年学専攻

220J6005

阿部 祐美子

Master's Thesis(Abstract)

January 2022

Relationship between Oral Hygiene, Swallowing Function and Life Satisfaction  
of Residents of Serviced Elderly Housing

Yumiko Abe

220J6005

Master's Program in Gerontology

Graduate School of Gerontology

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Shuichiro Watanabe

## 目次

第1章 緒言 .....	1
1.1 研究背景 .....	1
1.2 先行研究 .....	2
1.3 目的 .....	5
第2章 研究方法 .....	5
2.1 調査対象 .....	5
2.2 調査方法 .....	5
2.3 分析方法 .....	7
2.4 倫理的配慮 .....	7
第3章 結果 .....	7
3.1 分析対象 .....	7
3.2 対象者の特徴 .....	7
3.2.1 連続変数 .....	7
3.2.2 カテゴリー変数 .....	8
3.3 LSIK と調査項目との関連 .....	8
3.4 LSIK の関連要因の多変量解析結果 .....	8
第4章 考察 .....	9
4.1 サ高住入居者の属性分布 .....	9
4.2 LSIK に関連する嚥下機能の要因 .....	9
4.3 LSIK の関連要因 .....	10
第5章 終章 .....	11
5.1 結論 .....	11
5.2 今後の課題 .....	12
謝辞 .....	12
参考文献 .....	I
資料 .....	IV

## 第1章 緒言

### 1.1 研究背景

平成23年の「高齢者の居住の安定確保に関する法律（高齢者住まい法）」の改正により創設された登録制度によるサービス付き高齢者向け住宅（以下サ高住）では、安否確認サービスと生活相談サービスといったサービスが提供されている。また、サ高住は、地域包括ケアシステム構築のプロセスにおける住まいとしても注目されており、入居者は、自立した高齢者から要介護状態の高齢者まで幅が広く、さまざまな介護予防サービスが行われている。その一つの「口腔機能向上サービス」では、口腔機能向上の取組みとして口腔清掃や口腔体操などが行われており、対象者のスクリーニング項目としては、咀嚼機能、嚥下機能などに関する問診や反復唾液嚥下テスト repetitive saliva swallowing test（以下RSST）などが採用されている。

高齢者にとって日常生活の楽しみでもある食に関係する嚥下機能の向上は、生活満足度に好影響を及ぼすと考えられるが、高齢者の口腔サービスは、十分に普及されていない。特に、サ高住は、医療・介護の専門職がいる病院や高齢者施設と比較し、口腔ケアの必要性や摂食嚥下機能評価が重視されづらいことや医療機関との連携が不十分であることなどから、口腔機能向上の取組みは十分とは言えない現状がある。

### 1.2 先行研究

口腔機能や生活満足度に関する先行研究では、口腔機能の維持や向上は身体的・精神的にも影響を及ぼし、生活の質と関連があることが示されている。しかし、サ高住入居者においては、口腔衛生および嚥下機能の現状についてこれまでの報告が極めて少ない。サ高住入居者の生活の質 Quality of life（以下QOL）向上や生きがいに関する先行研究では、QOL向上や生きがいと身体活動やADLの向上などが関連していることから、自立支援の重要性が示唆されている。口腔機能の維持・向上は、低栄養の予防や身体活動・社会参加の増加から自立した生活につながると考えられ、生活満足度の向上につながると考える。

### 1.3 目的

本研究ではサ高住入居者の嚥下機能と生活満足度の関連を明らかにすることを目的とする。

## 第2章 研究方法

### 2.1 調査対象

本研究では、M市内のサ高住入居者60歳以上の男女68名に対し、自記式質問紙による留め置き調査を実施した。研究参加に同意し、質問紙に回答が得られた46名を対象に、後日、3回唾液嚥下積算時間を2回測定し、平均値のデータを分析に用いた。

### 2.2 調査方法

研究への参加を同意した高齢者に対し、口腔衛生の評価として、口腔清掃自立度判定基準：brushing denture mouth rinsing 以下BDR指標）、嚥下機能に関しては、地域高齢者誤嚥リスク評価指標：Dysphagia Risk Assessment for the Community-dwelling Elderly（以下DRACE）、また、「3回唾液嚥下積算時間」を測定した。生活満足度は、生活満足度尺度K：Life Satisfaction Index K（以下LSIK）により調査した。

## 2.3 分析方法

性差の比較は年齢、身長、体重、BMI については t 検定、睡眠時間、3 回唾液嚥下積算時間、DREAC、LSIK については、Mann-Whitney の U 検定を用いた。要介護度、障害高齢者の日常生活自立度、外出頻度、脳血管疾患の既往、呼吸器疾患の既往、その他の持病、内服、過去 1 か月以内の体調、基本チェックリストの口腔項目、義歯、BDR 指標、新型コロナウイルスの生活の変化、舌苔、熟眠感、情緒的サポートについては、 $\chi^2$  検定を行った。

次いで、各調査項目と LSIK の関連について、連続変数については Spearman の相関係数、2 群間比較については Mann-Whitney の U 検定、3 群間以上の比較については Kruskal-Wallis 検定を用いた。さらに、LSIK を目的変数とした一般化線形モデルによる多変量解析にて LSIK の関連要因を検討した。

## 2.4 倫理的配慮

本研究は、桜美林大学倫理委員会の審査を受け、承認（承認番号 19071）を得て行った。

## 第 3 章 結果

質問紙に回答が得られた 46 名の内、3 回唾液嚥下積算時間の測定が実施できた 44 名（64.7%）、男性 12 名（27.2%）、女性 32 名（72.7%）、平均年齢  $84.6 \pm 5.2$  歳を分析対象とした。

LSIK とカテゴリー変数との関係では、義歯の使用が無い者（有：3.9<無 5.1、 $p=.027$ ）および、新型コロナウイルス感染症による生活の変化が無い者（有：3.6<無：5.1、 $p=.013$ ）が有意に LSIK が高かった。

多変量解析の結果、LSIK 高値には、義歯未使用、新型コロナウイルス感染症の生活影響が無いこと、同居者以外に心配事や悩み事を聞いてくれる人がいること、3 回唾液嚥下積算時間が短いこと、週 1 回以上外出していること、および、年齢が高いことが有意に関連していた。

## 第 4 章 考察

多変量解析の結果、嚥下機能が高いこと、同居者以外の情緒的サポート提供者の存在は生活満足度を高めることが示唆された。一方、義歯の使用、新型コロナウイルス感染症の生活影響、閉じこもりは生活満足度を低めていた。咀嚼・嚥下機能の維持には義歯は欠かせないものであることから、適切な義歯の作成、義歯のさらなる改良が期待される。

## 第 5 章 終章

サ高住入居者の生活満足度を高めるためには、先行研究で指摘されている要因に加え、義歯の調整や嚥下機能の向上などの取組みも役立つものと考えられた。

## 謝辞

本研究を実施するにあたり、ご協力いただいたサ高住の入居者の皆さま、職員の皆さまほか、調査にご協力いただいたすべての方々へ深く感謝いたします。

## 引用文献

- 1) 総務省統計局：統計トピックス No. 129 統計からみた我が国の高齢者－「敬老の日」にちなんで－  
(<https://www.stat.go.jp/data/topics/topi1290.html>, 2021. 12. 26)
- 2) 日本歯科医師会：歯科診療所におけるオーラルフレイル対応マニュアル 2019 年度版  
([https://www.jda.or.jp/dentist/oral\\_flail/pdf/manual\\_all.pdf](https://www.jda.or.jp/dentist/oral_flail/pdf/manual_all.pdf), 2020. 8. 26)
- 3) 厚生労働省：1. 介護予防マニュアル改訂版：第 5 章口腔機能向上マニュアル  
([http://www.mhlw.go.jp/topics/2009/05/dl/tp0501-1\\_06.pdf](http://www.mhlw.go.jp/topics/2009/05/dl/tp0501-1_06.pdf), 2020. 10. 20)
- 4) 国土交通省：＜高齢者住まい法関係法令＞高齢者の居住の安定確保に関する法律  
([https://www.satsuki-jutaku.jp/doc/system\\_law\\_01.pdf](https://www.satsuki-jutaku.jp/doc/system_law_01.pdf), 2020. 10. 20)
- 5) 厚生労働省：高齢者向け住まいについて  
([https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu\\_Shakaihoshoutantou/0000048000.pdf](https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000048000.pdf), 2021. 10. 4)
- 6) 一般社団法人高齢者住宅協会：第 5 回サービス付き高齢者向け住宅に関する懇談会資料  
情報提供 サービス付き高齢者向け住宅の現状等  
(<https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/content/001381203.pdf>, 2021. 10. 4)
- 7) 厚生労働省：地域包括ケアシステム市町村における地域包括ケアシステム構築のプロセス（概念図）  
([https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi\\_kaigo/kaigo\\_koureisha/chiki-houkatsu/dl/link1-6.pdf](https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiki-houkatsu/dl/link1-6.pdf), 2021. 6. 10)
- 8) 厚生労働省：介護サービス施設・事業所調査：調査の結果 9 寝たきり度「障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）判定基準」による  
(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/24-22-2b.html>, 2021. 10. 4)
- 9) 米山武義, 鴨田博司. 口腔ケアと誤嚥性肺炎予防. 老年歯学 2001 ; 16 : 3-13.
- 10) 米山武義, 吉田光由, 佐々木英忠ほか. 要介護高齢者に対する口腔衛生の誤嚥性肺炎予防効果に関する研究. 日歯医学会誌 2001 ; 20 : 58-68.
- 11) 兵頭誠治, 三島克章, 吉本智人ほか. 要介護高齢者の口腔状態に関する満足度とその関連要因. 老年歯学 2006 ; 21 (1) : 11-15.
- 12) 久保田浩三, 千綿かおる, 三阪美恵ほか. 高齢メンテナンス・SPT 患者における主観的健康観と現在歯数の関連. 九州歯科学会雑誌 2014 ; 68 (1) : 1-9.
- 13) 三角洋美. 生活機能低下の防止を目指した通所リハビリテーションにおける口腔機能向上プログラムについて. 日本歯科衛生学会誌 2010 ; 4 (2) : 90-96.
- 14) 岡田和隆, 柏崎晴彦, 古名丈人ほか. 自立高齢者における栄養状態と口腔健康状態との関連－第 1 報：サルコペニア予防プログラム介入前調査として－. 老年歯学 2012 ; 27 : 61-68.
- 15) Kimura M, Watanabe M, Tanimoto M, et al. Occlusal support including that from artificial teeth as an indicator for health promotion among community-dwelling elderly in Japan. Geriatr Gerontol Int. 2013 ; Jul13(3) : 539-46.
- 16) 西本美紗, 田中友規, 高橋 競ほか. オーラルフレイルは残存歯数減少よりも口腔関連 QOL 低下と強く関連する：地域在住高齢者による横断検討（柏スタディ）. 日本未病システ

ム学会雑誌 2019 ; 25 (3) : 48-52.

17) 西本美紗, 田中友規, 高橋 競ほか. オーラルフレイルと食事の満足感の関連: 地域在住高齢者による横断検討 (柏スタディ). 日老医誌 2020 ; 57 : 273-281.

18) 松原慶吾, 水本豪, 古賀和美ほか. 地域在住高齢者の摂食嚥下障害に対する理解と予防への意識に及ぼす影響と満足度に関する研究〜口腔機能と嚥下機能および身体の衰えを包括的に調査する「食べること健康チェック」の活用〜. 熊本保健科学大学研究誌 2020 ; 17 : 95-103.

19) 森下志穂, 渡邊裕, 平野浩彦ほか. 通所介護事業所利用者に対する口腔機能向上および栄養改善の複合サービスの長期介入効果. 日本歯科衛生学会雑誌 2017 ; 12 (1) : 36-46.

20) 渡邊裕, 枝広あや子, 伊藤加代子ほか. 介護予防の複合プログラムの効果の特徴づける評価項目の検討ー口腔機能向上プログラムの評価項目についてー. 老年歯科医 2011 ; 26 (3) : 327-338.

21) 関口晴子, 倉林國子, 佐藤弘美ほか. 通所施設での円滑な口腔機能向上サービスを目指してーモデル事業から見えてきたことー. 日本歯科衛生学会雑誌 2007 ; 2 (1) : 120-121.

22) 五十嵐満哉, 川上直子, 諏訪勝志ほか. 高齢者複合施設における訪問リハビリテーションの関わりにより活動範囲が拡大し、社会参加及び役割の獲得を図れた一事例. 石川県作業療法学会雑誌 2018 ; 27 : 11~16.

23) 加藤隆三, 小池涼太, 増田高茂ほか. サービス付き高齢者向け住宅入居者の QOL 向上に向けた施策の検討. 静岡県理学療法士会学術誌 2018 ; 37 : 63-70.

24) 伊藤詔子, 沖中由美. サービス付き高齢者向け住宅で生活している高齢者の「生きがい」. ホスピスケアと在宅ケア 2018 ; 26(1) : 46-51.

25) Tanaka J, Mukai N, Kakudo M, et al. Oral health status and food modification for the elderly with low level of care needed in the service-added homes for the elderly. Oral science in Japan 2015 ; (2189-1885) : 71-74.

26) 伊藤直子, 渡辺修一郎. 呼吸筋訓練が地域在宅高齢者の口腔および呼吸機能に及ぼす効果ー嚥下・口腔・発声・呼吸筋機能を指標としてー. 日老医誌 2017 ; 54 : 364-374.

27) 伊藤直子, 森田恵子, 太田淳子ほか. 地域在住高齢者における体位・頭頸部角度の違いと嚥下機能ー唾液嚥下積算時間を用いてー. 応用老年学 2015 ; 9 : 73-81.

28) 米澤知恵, 道重文子. 舌苔の評価における動向および評価基準とその信頼性・再現性に関する文献検討. 大阪医科大学看護研究雑誌 2018 ; 8 : 116-120.

29) 曾山善之, 平田米里, 浦崎裕之ほか. 特別養護老人ホームにおける高齢者の全身状況, 口腔内状況と口腔清掃自立度について. 老年歯学 2003 ; 17 : 281-288.

30) 卷直樹, 松田ひとみ, 岡本紀子ほか. 地域在住高齢者における睡眠の質と嚥下呼吸機能との関連. 理学療法科学 2020 ; 35 (3) : 455-459.

31) 三浦宏子, 原修一, 森崎直子ほか. 地域高齢者における活力度指標と摂食・嚥下関連要因との関連性. 日老医誌 2013 ; 50 : 110-115.

32) 三浦宏子, 守屋信吾, 玉置洋ほか. 高齢期の地域住民の口腔機能の現状と課題. 保健医療科学 2014 ; 63 (2) : 131-138.

33) 工藤禎子, 高齢者の Well-Being に関する指標とその活用. 日本地域看護学会誌 2019 ; 22(1) : 59-64.

- 34) 古谷野亘, 老後の幸福感の関連要因—構造方程式モデルによる全国データの解析—. 理論と方法 (Sociological Theory and Methods) 1993 ; 8(2) : 111-125.
- 35) Locker D, Matear D, Stephens M, et al. Oral health-related quality of life of a population of medically compromised elderly people. Community Dent Health 2002 ; 19(2) : 90-7.
- 36) Gift HC, Atchison KA. Oral, health, health, and health-related quality of life. Med Care 1995 ; 33(11) : NS57-77.
- 37) 鈴木誠太郎, 高柳篤史, 吉野浩一ほか. 自立高齢者における GOHAI スコアと関連する要因. 口腔衛生会誌 2016 ; 66 : 452-457.
- 38) 貞森紳丞, 小谷博夫, 二川浩樹ほか. 義歯性口内炎の臨床的研究 (第2報) 義歯の取り扱いと義歯性口内炎との関係. 日本補綴歯科学会雑誌 1990 ; 34(1) : 202-207.
- 39) 厚生労働省: 新型コロナウイルス感染症対応について (高齢者の皆さまへ)  
([https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi\\_kaigo/kaigo\\_koureisha/yobou/index\\_00013.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/yobou/index_00013.html), 2021. 12. 01)
- 40) Ritika G, Vivek S, Sujata S. Managing mental health issues among elderly during COVID-19 pandemic. Geriatric Care and Research 2020 ; 7 (1) : 29-32.
- 41) 一般社団法人日本老年医学会: 「新型コロナウイルス感染症」高齢者として気を付けたいポイント  
([https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/citizen/pdf/coronavirus\\_01.pdf](https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/citizen/pdf/coronavirus_01.pdf), 2021. 12. 01)
- 42) 中島民恵子. 新型コロナウイルス流行時における心身変化とその対応. 老年社会科学 2021 ; 42 (4) : 363-368.
- 43) 矢野貴恵, 岩佐由美, 白井文恵. 新型コロナウイルス感染症対策としての自粛生活による生活要援護者への影響—定着している新しい生活様式—. 日健医誌 2021 ; 30 (2) : 187-195.
- 44) Hirano M, Imai H, Oya M. Effect of Awareness and Habits of Oral Care on Life Satisfaction. Oral Health Prev Dent 2019 ; 17(2) : 131-138.
- 45) 厚生労働省: 「国際機能分類—国際障害分類改訂版—」(日本語版)の厚生労働省ホームページ掲載について  
(<https://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0805-1.html>, 2021. 12. 01)
- 46) 厚生労働省: 1. 介護予防マニュアル改訂版: 第6章 閉じこもり予防・支援マニュアル  
([https://www.mhlw.go.jp/topics/2009/05/d1/tp0501-1\\_07.pdf](https://www.mhlw.go.jp/topics/2009/05/d1/tp0501-1_07.pdf), 2021. 12. 01)
- 47) 厚生労働省: 表4 基本チェックリスト  
([https://www.mhlw.go.jp/topics/2009/05/d1/tp0501-1f\\_0005.pdf](https://www.mhlw.go.jp/topics/2009/05/d1/tp0501-1f_0005.pdf), 2020. 10. 20)